

稚内市

樺太資料展示施設整備

基本構想計画書

平成 29 年 9 月

稚内市教育委員会

## 1. 樺太資料展示施設整備に関する基本的な考え方

宗谷海峡を挟み 43km 先に樺太（サハリン）を望む稚内市には、豊かな自然と、先史時代から続く「国境のまち」ならではの歴史が残されています。また樺太（サハリン）を間近に望むことができる当該地域は古くから、大陸へと続く「北の玄関口」の役割をはたしてきました。

とくに江戸時代後期以降その役割は大きくなり、日露戦争後は南樺太への玄関口として重要な役割を担い、終戦時には樺太からの引き揚げ港、戦後はヨーロッパに接する唯一の国境のまちとして、サハリン、ロシアとの交流の窓口となっています。

稚内には、そのような「国境のまち」としての歴史を伝える史跡が数多く残されています。また、市街地の商店街アーケードのロシア語表記をはじめ、現代でも、ロシアとの交流を体感できるまちなみも広がっています。

本構想では、稚内市が収集保管している資料に加えて、近年新たに寄贈された樺太関係の資料を元にして樺太資料展示施設を新設し、さらに既存展示施設の位置づけをより明確にした上で、これらの展示施設や歴史的建造物、史跡等との連携を強めていきたいと考えています。また、これら展示施設に加え、市域に残る史跡やまちなみを巡ることにより、稚内・樺太で先人たちが刻んできた歴史・文化を楽しくわかりやすく体感しつつ後世に伝え、さらに「国境のまち」としての歴史を学び、未来への夢と希望を育むまちとして、特色ある地域づくりを行なっていきたいと考えています。

本構想によって稚内市の地域特性がより明確化され、その地域特性を活かすことにより、産業、文化、観光面でも稚内市のさらなる地域活性化へとつなげていきたいと考えています。また、ふるさとの歴史や文化を身近に感じることでできる地域づくりを行なうことにより、未来を担う子どもたちに、郷土の歴史や文化への関心を高める、魅力的な施設になることを目指します。

## 2. 市内歴史展示に関連する既存施設および史跡について

### 2-1 稚内市北方記念館/稚内市開基百年記念塔（稚内市ヤムワッカナイ）

- ・稚内市北方記念館は、1978（昭和 53）年に市の開基百年・市制施行 30 年記念事業として稚内公園内に建設された稚内市開基百年記念塔に付随して設置されました。稚内市開基百年記念塔は、地上 70 メートル（海拔 240 メートル）に展望室が設けられています。天候に恵まれれば展望室からは、サロベツ原野、利尻・礼文の島々をはじめ、稚内市街地、宗谷海峡、樺太（サハリン）が一望できます。
- ・稚内市北方記念館は開基百年記念塔 1 階および 2 階部分において、稚内の歴史や自然について展示する総合的な展示施設として開館しました。その後 2009（平成 21）年、間宮海峡発見 200 年を機に、1 階部分を中心にして、間宮林蔵をはじめとした「近世の稚内・宗谷・樺太」を主軸においたテーマにリニューアルしています。
- ・開館期間は、4 月 29 日から 10 月 31 日の約半年間で冬季間は休館となります。施設には市民、観光客を合わせ、年間約 1 万 8 千人が訪れています。



### 2-2 稚内市旧瀬戸邸（稚内市中央 4 丁目）

- ・旧瀬戸邸は、稚内市内中央地区に残る歴史的建造物として、2012（平成 24）年 4 月に開館しました。
- ・建物は 1952（昭和 27）年、底引漁業などを営んでいた瀬戸常蔵の住宅建造物として、秋田大工の佐藤東作により設計・施工されました。今年で築 65 年が経過し、稚内を代表する歴史的建造物の一つとして親しまれています。
- ・瀬戸常蔵は、1936（昭和 11）年 10 月に利尻島から稚内に渡り、多くの底引船を有して、稚内商工会議所会頭をはじめ数々の要職を務め、水産のまち稚内の中心人物として活躍しました。
- ・2012（平成 24）年 12 月には、国の文化審議会から「国土の歴史的景観に寄与している」との理由のもと、文部科学大臣へ答申され、2013（平成 25）年 6 月 21 日に、文化財登録原簿への登録をへて、正式に国の登録有形文化財となりました（登録名称：きゅうせとけしゅうたくしゅおく 旧瀬戸家住宅主屋）。建物は、文化庁から評価を受けたとおり、

稚内市の中心市街地において、昭和の近代水産業の歴史や稚内の生活文化に関する展示とともに、洋室、和室とも丁寧な造作が施された、稚内市の昭和における建築的遺産といえます。

- ・開館期間は、4月上旬から10月31日まで、稚内市教育委員会により無休で開館しています。
- ・また平成28年度は11月から3月までは、わからない観光活性化促進協議会によりツアー客を中心に、不定期で開館しており、平成29年度の冬季においても同様の開館が予定されています。
- ・平成28年度は、夏季と冬季を合わせて約1万4千人が来館しております。

### 2-3 稚内副港市場（稚内市港1丁目）

- ・稚内副港市場は、2007（平成19）年4月、「見る」、「買う」、「食べる」、「遊ぶ」、「休む」、「学ぶ」を楽しむことが出来る複合型商業施設として、オープンしました。
- ・稚内副港市場が移置する、稚内港の第一副港は、沖合底引漁業の基地として、賑わいのある象徴的なエリアでしたが、200海里漁業専管水域の設定により減船が余儀なくされ、港の活気が失われつつありました。そこで民間有志の方々と行政により、この地域の再開発のため具体的な計画づくりが行われて、オープンへと至っています。
- ・稚内副港市場1階には、「港ギャラリー」として、稚内の昔の町並みの再現や、樺太と稚泊航路の歴史が展示されています。また1階には観光情報も発信するスペースや、新鮮な魚介類や水産加工品を中心としたお店が立ち並んでいます。
- ・稚内副港市場の2階・3階には、「天然温泉・港の湯」があり、稚内の港を望む展望露天風呂として、市民および市外から稚内を訪れる方々に親しまれています。



### 2-4 稚内市立図書館（稚内市大黒4丁目）

- ・稚内市立図書館は2003（平成15）年6月、市内大黒4丁目に移転新築し、リニューアルオープンしました。
- ・市立図書館は、計画の段階から積極的に市民の意見・要望を取り入れながら建設されており、ユニバーサルデザインに基づいた設計となっています。
- ・また樺太（サハリン）に関する図書資料についても積極的に収集に心掛け、道内の中でも同資料数はトップクラスであると言われています。

## 2-5 樺太関係の建造物および史跡について

- ・旧海軍望楼【稚内市指定文化財】

1902（明治 35）年建設、建設場所：宗谷岬公園

- ・稚内港北防波堤ドーム【北海道遺産】・・・①

1936（昭和 11）年建設 ⇒1978（昭和 53）年全面改修

設計者：土屋実、建設場所：稚内港

- ・氷雪の門（正式名称：樺太島民慰霊碑）・・・②

1963（昭和 38）年建立、設置場所：稚内公園

作者：本郷 新

- ・九人の乙女の碑 ・・・③

1936（昭和 38）年建立、設置場所：稚内公園

作者：本郷 新



- ・稚泊航路記念碑 ・・・④

1970（昭和 45）年建立、設置場所：稚内公園

- ・間宮林蔵の立像 ・・・⑤

1980（昭和 55）年、設置場所：宗谷岬

作者：峯 孝

- ・宮沢賢治文学碑 ・・・⑥

1986（昭和 61）年建立、設置場所：宗谷岬公園

- ・行幸啓記念碑 ・・・⑦

1969（昭和 44）年建立、設置場所：稚内公園

- ・教學の碑 ・・・⑧

1989（平成元）年建立、設置場所：稚内公園

- ・KANE POPPO（カネポッポ）

2012（平成 24）年設置、設置場所：JR 稚内駅

作者：流 政之、設置者：JR 北海道、JR 北海道文化財団

- ・樺太統合慰霊碑（仮称）

2018（平成 30）年建立予定、設置場所：稚内公園（予定）

設置予定者：全国樺太連盟



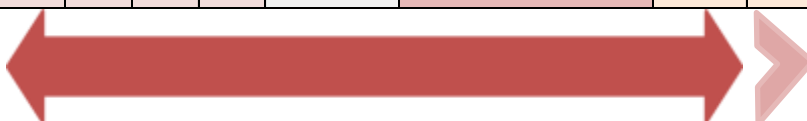


### 3. 稚内市内における歴史展示施設の位置づけについて

北海道の歴史は、本州と津軽海峡で隔てられていることなどから、一般に教科書で習う日本の歴史とは異なる歩みを続けてきました。その中でも、稚内は43km先にはサハリンの島影を望むことができ、近世（江戸時代）から宗谷場所が設置されるなど、近世・近代・現代において国内の他の地域ではあまりみることのできない「国境のまち」としての特徴的な歴史を歩んできました。これらの歴史的特徴について以下市内3施設では、主に近世・近代・現代に分け、わかりやすく展示・解説することを目指します。

	古代		中世			近世		近代			現代			
本州			弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉	室町	江戸						
北海道	旧石器	縄文	続縄文	オホーツク	擦文		アイヌ			明治	大正	昭和戦前	昭和戦後	平成

#### I. 北方記念館



間宮林蔵が活躍した近世の宗谷・樺太を中心に、  
古代から明治期までの宗谷（稚内）・樺太の歴史を展示。

##### 【稚内・樺太の近世史】

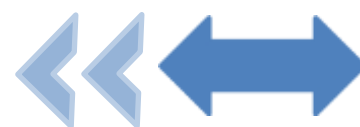
#### II. 樺太資料展示施設（H30 新設予定）



明治から戦前の昭和を中心に、稚内・樺太の歴史を展示。

##### 【稚内・樺太の近代史】

#### III. 旧瀬戸邸



戦後の底引漁業を中心に、稚内の水産業、  
戦後の稚内の様子を中心に展示。

##### 【稚内の現代史】

#### I. 稚内市北方記念館

近世（江戸時代）までにおける間宮林蔵や伊能忠敬らが活躍した時代の歴史を中心として、明治のはじめに宗谷から現在の稚内中心部に、行政機能、都市、港湾機能が移るまでの歴史について、北方記念館では展示・解説します。

#### II. 樺太資料展示施設（H30 新設予定）

明治末期の日露戦争後、日本の北の国境は北緯50度となり、大正時代には稚泊航路が開設されました。明治末期から戦前の昭和を中心に、近代における稚内と樺太の歴史を、当時の樺太の絵葉書や地図、映像資料などをもとに、樺太資料展示施設では展示・解説します。

#### III. 稚内市旧瀬戸邸

戦後、稚内には多くの樺太引き揚げ者が定住します。昭和24年には稚内町と宗谷村は合併し、稚内は市制が施行され、その直後の昭和27年、旧瀬戸邸は瀬戸常蔵の邸宅として建設されました。戦後、稚内の主幹産業として発展した底引漁業をはじめとした、稚内の現代史について、旧瀬戸邸では展示・解説します。

### 3. 樺太資料展示施設の展示コンセプトについて

近世	近代		昭和		現代
江戸	明治	大正	戦前	戦後	平成

#### ・ 明治期～昭和（戦前期）



- ・ 明治期、千島樺太交換条約から日露戦争後の樺太における国境策定や、樺太における豊富な資源や国境等の状況から、樺太がどのように国内の政治、経済の一役を担ったのか、資料をもとに解説します。また大正時代に入り、鉄路が稚内まで延伸しさらに稚泊航路が開設されたことにより、樺太とともに発展をとげた稚内の状況を解説します。

#### ・ 昭和（引き揚げ～戦後）の状況



- ・ 終戦時の樺太からの引き揚げの状況と、戦後の稚内における「氷雪の門」、「九人の乙女の碑」などの建立に関する望郷の思いや、取り組みについて解説します。

#### ・ 明治期～昭和（戦前期）

##### 3-1 明治期

- ・ 1875（明治 8）年、千島・樺太交換条約が日本とロシア帝国との間で結ばれ、国境が定められたのち、1904～1905（明治 37～38）年の日露戦争で日本が勝利し、ポーツマス条約が結ばれ、南樺太が日本領となりました。
- ・ 江戸時代から明治時代にかけて宗谷海峡における国境の変化を、北緯 50 度の国境標石の状況、地図、写真等を交えて解説します。また豊富な、漁業、林業、石炭などの資源を有する樺太が、当時の日本において、政治（軍事・国境）、経済（資源・産業・物流）などの面から、どのように重視され、どのような位置づけにあったのか、当時の樺太庁の資料などから解説します。

\* キーワード：千島樺太交換条約、日露戦争、ポーツマス条約（日露講和条約）、国境の変化

\* 稚内周辺に残る史跡：旧海軍望楼（市指定文化財）

##### 3-2 大正期

- ・ 大正時代に入ると、1923（大正 12）年には稚泊航路が、翌年には稚斗航路が開設され、稚内と樺太のつながりは深まっていきます。大正から昭和（戦前）の樺太の状況について、本斗、真岡、大泊、豊原といった現在においても本市と関係の深いまちを中心に、近年新たに寄贈された樺太資料や、大正 14 年の皇太子裕仁による樺太行啓の資料などをもとに、当時の樺太の状況を解説します。さらにこの時代、鉄路、航路が整備され、樺太とともに大きく発展をとげた稚内の状況について解説します。

- \* キーワード：樺太の発展、樺太とともに発展する稚内、鉄道の延伸、稚泊・稚斗航路、稚内港駅、皇太子裕仁（昭和天皇裕仁）、稚内行啓・樺太行啓、宮沢賢治の樺太訪問
- \* 稚内周辺に残る史跡：稚泊航路記念碑、宮沢賢治文学碑
- \* 関連資料：樺太関係寄贈資料、樺太行啓関係資料、北海道-樺太海底ケーブル（S9：1934年）、樺太地図（鳥瞰図等）、北防波堤ドーム関連資料（S11：1936年）

## ・昭和（引き揚げ～戦後）の状況

### 3-3 終戦時の樺太における悲劇

- ・1945（昭和20）年8月9日、国境を越えたソ連軍が進軍を開始し、国境地帯で激しい戦闘が発生します。同年8月11日には恵須取の空襲が開始され、さらに16日には恵須取・塔路、20日には真岡にソ連軍が海上から上陸しました。その後も22日には、樺太の中心都市であった豊原の駅前が空襲をうけます。終戦時におけるこれら樺太の状況を、樺太引き揚げ者からの証言や映像資料を交え解説します。
  - \* キーワード：恵須取・真岡・豊原の戦禍、九人の乙女の悲劇
  - \* 稚内周辺に残る史跡：樺太統合慰霊碑（仮称：2018年建立予定）
  - \* 関連資料：豊原の空襲、九人の乙女関係者からの聞き取り調査資料・映像資料

### 3-4 引き揚げ時の状況

- ・1945年8月25日に大泊は占領され、宗谷海峡はソ連により封鎖されます。その直前の8月22日、大泊から小笠原丸に乗船し、稚内で下船した樺太引き揚げ者の一人に、のちの横綱大鵬がいます。その後、小笠原丸は留萌沖で撃沈され三船殉難事件として、後世に語り継がれています。留萌沖の三船殉難事件を解説するとともに、その後の横綱大鵬の活躍と稚内との交流について紹介します。また稚内における樺太からの引き揚げ者の状況などを、聞き取り調査をもとに解説します。
  - \* キーワード：樺太引き揚げ者、横綱大鵬、三船殉難事件
  - \* 稚内周辺に残る史跡：三船殉難慰霊之碑（小平町鬼鹿）、大鵬の銅像（2014年建立：ハリソ・ホロイスク）
  - \* 関連資料：横綱大鵬関係資料、樺太引き揚げ者・大鵬関係者からの聞き取り映像

### 3-5 戦後の稚内と樺太

- ・戦後、稚内には多くの樺太引き揚げ者が定住し、1952（昭和24）年には当時の稚内町と宗谷村は合併、同年稚内に市制が施行されます。1962（昭和37）年には、樺太慰霊碑建立期成会が結成となり、引き揚げ者の心の故郷として稚内公園の高台に、彫刻家、本郷新の代表作の一つである「氷雪の門」（正式名称：樺太島民慰霊碑）が建立されます。「氷雪の門」そして「九人の乙女の碑」建立に込められた、本郷新の思いや、稚内市における取組、望郷の思いなどについて解説します。
  - \* キーワード：樺太引き揚げ者、真岡、九人の乙女、氷雪の門・九人の乙女の碑平和祈念祭
  - \* 稚内周辺に残る史跡：「氷雪の門」、「九人の乙女の碑」、「行幸啓の碑」、「教学の碑」
  - \* 関連資料：昭和天皇裕仁稚内行幸啓関係資料、平和祈念祭関係資料



## 4. 展示施設の機能と展示予定資料について

### 4-1 施設利用の考え方

- ・展示施設前、施設入口部分に入館を促す工夫や意匠が必要となります。案内表示の設置、施設の看板、および壁面の活用に関しても、展示施設設計の対象とします。
- ・展示施設は、副港市場2階角地に移置し、北と西面に大型の窓が設置された開放的な設計となっております。
- ・一方において、展示施設は基本的に直射日光を遮断する必要があり、遮光カーテン等の使用を考えています。施設の構造上、メンテナンス等で窓を開ける必要もあるため、窓全面を壁面に改修することは避ける必要があります。なお窓がある面に関しても、遮光カーテン等にて日光を遮断した上で、パーテーションおよび展示ケースを設置することは可能です。
- ・施設の現状として、施設入口を入ると、左手側に旧施設の厨房があった区域には、水返しのコンクリートが15～40cm程の段差と、1階から配管（給水管および排水管）が立ち上がっています。基本的に、展示空間については段差がなく平坦な状況が好ましいと考えていますが、出来る限り費用を抑えるため、全面を平坦にするのではなく、部分的に平坦にする（例えば入り口付近から中央への展示導線部分の平坦化）などの工夫が必要となります。
- ・主な展示施設の機能としては、下記に示すとおり①資料展示・解説機能、②施設案内機能、③資料収蔵・閲覧機能、④映像上映機能、⑤絵画、写真展示機能を検討しています。これらの機能を備えながら、施設内の段差が最小限となる展示レイアウトが好ましいと考えています。
- ・展示構成および展示レイアウトに関しては、最小限の人員による運営が可能で、かつ展示内容の更新およびメンテナンスが容易にできるよう、機能的でシンプルなものが好ましいと考えています。

### 4-2 主な展示施設の機能

#### 1) 資料展示・解説機能

- ・資料の展示方法として、絵はがき、写真、実資料等については、設置する展示ケース内に展示します。なお複製資料もしくは大型資料等で、来館者が触れることに問題がないものは、ケース外の展示となります。
- ・また資料の展示合わせて、解説パネルを設置します。これら資料展示と解説パネルにより、稚内および樺太の歴史や文化に関するつながりを来館者に解説します。展示ケースについては10～20台程度、解説パネルは30枚程度予定しています。

#### 2) 施設案内機能

- ・施設の入口付近に展示等の案内が出来る空間を設置します。具体的には施設案内用のカウンター、案内員の簡易的な事務スペース（電話、パソコン等設置）などで主に、施設外からの問い合わせや入館者数の確認、施設パンフレットの配布、来館者への対応等の業務が可能な空間を想定しています。

#### 3) 資料収蔵・閲覧機能

- ・樺太に関する図書資料および、絵はがき、写真、地図等については、書架や収蔵棚を設けて適切に保管・収蔵します。またカウンター等で、来館者がそれら資料の閲覧が可能な機能を検討しています。

#### 4) 映像上映機能

- ・樺太に関する映像を上映し鑑賞できる空間を設置いたします。具体的には、市内の小学校（一クラス）もしくは、観光ツアー客（バス一台）などの来館者（30人程）が、一度に映像資料を鑑賞可能な大型ディスプレイもしくは大型スクリーン（プロジェクター）を備えた設備を想定しています。
- ・この空間を利用して、市民講座（稚内学）や小規模の講演会、展示説明会の開催を検討しています。また必要に応じて、大型ディスプレイ等にパソコンを接続し、資料映写スクリーンとしても利用できることが好ましいです。なお解説および講座の際などに使用する音響設備（マイク・スピーカー等）の設置についても検討しています。

#### 5) 絵画、写真等展示機能

- ・樺太に関する絵画、写真、陶芸等の作品を特別展示で、開催可能な機能を検討しています。一度に絵画・写真等が30枚以上可能な機能および設備（壁面、吊り具、パーテーション、ロープパーテーション、照明器具等）を想定しています。なお立体造形物（陶芸作品等）に関しては、移動式のテーブル等での展示を考えています。

### 4-3 主な展示予定資料

#### 1) 樺太に関する「絵はがき、写真、写真帖」の展示

- ・主に樺太関係者から寄贈された絵葉書、写真類です。樺太絵葉書および写真帖の実資料を展示するほか、当時の樺太の様子を伝える資料として、写真を引き伸ばしパネル等での展示を検討しています。
- ・また展示施設内に、樺太の写真等を印刷した、壁貼展示幕および展示用紗幕などの展示も検討しています。
  - 樺太絵葉書・樺太関係写真：約1,600点収蔵
  - 写真帖・アルバム類：約50冊収蔵【「皇太子 行啓記念」（1914）、「樺太写真帖」（1959）、「望郷樺太」（1979）など】

#### 2) 樺太に関する「実資料・地図等」の展示

##### ・実資料

主に樺太関係者から市に寄贈された実資料を展示します。樺太の漁業を伝える、樺太に実在した漁業部の半纏（はんてん）や、樺太の学校を伝える中学・高校の校章、樺太・稚内と大鵬のつながりを示す横綱大鵬関係資料、北海道と樺太を結んでいた電話の「海底ケーブル」などの資料の展示を検討しています。

○実資料（衣類・カバン・校章）：約100点

【樺太（本斗・落合）における漁業部等の半纏（はんてん）、樺太（恵須取・敷香）の中学校、高等女学校の校章、大鵬関係資料（大相撲稚内準本場所資料ほか）、北海道-樺太海底ケーブル（S9：1934年）直径5.5×50cm（36cm）など】

##### ・地図・記録類

主に樺太関係者から寄贈された地図類です。戦前発行されたもののほか、戦後、樺太関係者が当時の記憶や資料から、製作された資料についても所蔵しています。代表的な地図は大きく引き伸ばして展示し、樺太の位置や地形、稚内とのつながりについて分かりやすく来館者に伝えます。

○地図・記録類：約30点

【大泊・真岡・本斗築港埋立関係書、特別交付金認定通知書（S42）、豊原、大泊、本斗、真岡地図（大正期）、樺太鳥瞰図（S10：1935年ころ 吉田初三郎作）、豊原鳥瞰図（S30：1955年ころ作成）】

### 3) 樺太に関する「図書類」の収蔵と閲覧スペース

- ・ 樺太に関する図書類は、基本的に稚内市立図書館に収蔵されています。市が所有する樺太に関する書籍のうち、複数冊所有している図書の一部について本施設で収蔵、閲覧できる体制を検討しています。
- ・ 案内カウンターの背後等に書架および収蔵棚を設置し、同カウンターなどに閲覧スペースを設け、図書類および紙資料等の閲覧を可能とすることを検討しています。
- ・ さらに来館者用のタブレットもしくはパソコン等（3台程度）を配備し、樺太に関するデータ（絵はがき資料、樺太にあった町の概要など）を検索、閲覧できる機能を検討しています。
- ・ これらの機能を通し、稚内市立図書館との連携を図っていきます。
  - 樺太に関する図書類：約500冊収蔵予定。

### 4) 樺太に関する「映像資料」

- ・ 稚内および北海道内には、樺太からの引き揚げ者をはじめとした関係者が多く居住しております。
- ・ それらの方々からの聞き取り調査を中心に、現在稚内市教育委員会では、樺太と稚内とのつながりを示す、映像資料を作成中であり、これらの映像資料について上映を検討しています。
  - 現在作成中の樺太映像の主な内容
    - 【樺太豊原ほか街の様子、豊原の空襲時の様子、三船殉難事件と横綱大鵬、稚内と大鵬のつながり、「氷雪の門」と平和祈念祭など】

### 5) 樺太に関する「芸術作品」の展示

- ・ 稚内市が所蔵する樺太に関する作品として、樺太に関する絵本の原画があります。2005（平成17）年、稚内ともゆかりが深い絵本作家である関屋敏隆氏が間宮林蔵の樺太、大陸での冒険を描いた絵本『まぼろしのデレン』の原画27点の展示、活用を検討しています。
- ・ また樺太（サハリン）と稚内は芸術分野（絵画、写真、陶芸）などにおいても、様々な関連が深く、それらの作品に関する特別展示を検討しています。
  - まぼろしのデレン原画（27×60cm：21枚、30cm×30cm：8枚） 計27点

### 6) 樺太に関する「解説パネル」の展示

- ・ 稚内と樺太の歴史や文化を紹介するとともに、上記1～6までの展示資料をより分かりやすく来館者に伝えるため、「解説パネル」および「解説キャプション」を製作いたします。本設計業務においては、解説パネルおよびキャプション制作の前段として、グラフィックプランの提示を求めます。
- ・ パネルおよびキャプションとも、日本語に加え、最低一ヶ国語以上の多言語で表記することが好ましいです。
  - 解説パネル：30枚程度、サイズ：A1～A3程度（展示資料に応じたサイズとする）
  - 解説キャプション：100～200枚程度、サイズ：A8～A6程度（展示資料に応じたサイズとする）